

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 横田 浩

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 進藤 秀夫

■[編集後記](#)

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 横田 浩

皆様、明けましておめでとうございます。本日は新年のご多用中にも関わりませず、関係官庁様、関連企業様、関係団体様、報道関係様、そして日頃からお世話になっております多数の方々にご臨席を賜り、誠に有難うございます。新年に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返って見ますと、持続的な成長への意識が高まり、資源の有効利用や温暖化対策の強化、海洋プラスチック対策などが大きな課題として取り上げられる一方で、多くの国と地域でグローバリズムに否定的な内向き志向が強まり、米中貿易摩擦が強まる中で中国の経済成長が減速するなど、世界情勢は不透明感を増しました。国内では、西日本豪雨や台風、大阪や北海道での地震など自然災害に見舞われた1年ではありましたが、日本経済はこれまで穏やかな回復が続いてきました。今年は消費税増税が予定されており、様々な対応策が打ち出されておりますが、その影響を注意深くフォローし対応したいと考えております。



VEC横田会長

このような状況の中、昨年の塩ビ樹脂の出荷は高水準に推移し、国内出荷量は106万トン前後と前年比2%程度の伸びが、また、生産量、出荷量総量は163万トン程度とほぼ前年並みの水準が見込まれます。世界的には途上国のインフラ需要は底堅いものがあり、また、国内でも塩ビの良さが見直されておりますので、今年も堅調な需要が続くことを期待しております。

賀詞交歓会でご挨拶頂いた
経済産業省 上田審議官

さて、昨年6月に策定された第四次循環型社会形成推進基本計画を受けて、今年6月に大阪で開催されるG20サミットに向けて、日本の優れた取り組みを世界に示すべく、「プラスチック資源循環戦略」の策定が進められています。塩ビ製品は、耐久性に優れ、長寿命でリサイクル性能があることから、資源節約型で、持続可能性に大きな貢献ができ

るものです。当協会は、海洋プラスチック問題対応協議会共同事務局の一員として、プラスチックが社会・経済に大きな貢献を行ってきていることと、賢く使うことにより環境負荷の低減を図ることができることについての社会の理解を深めるべく、政府、学术界、関連業界団体の皆様と協力し、海外の塩ビ関連団体らとも連携して普及啓蒙活動に貢献してまいります。また、塩ビ製品については、一層の環境性能の向上を図るべく、さらなるリサイクルの促進や用途開発に取り組んでいきたいと考えています。



VEC賀詞交歓会の様子

持続的社會を形成する上で、リサイクルと共に、住宅・建造物のZEB/ZEH化は、資源節約と生活の質の向上に欠かせません。そのカギを握るのは開口部の断熱性能であり、樹脂窓が大きな役割を果たします。近年、住宅分野ではしっかりと樹脂窓が定着してきました。当協会は、引き続き、学界、関連産業界と協力して、科学的知見の積み上げと啓蒙活動を続けてまいります。また、樹脂窓耐久性評価のJIS規格化を目指して試験・検証を続けてまいります。さらに、窓に限らず、建築物に貢献できる塩ビ建材の可能性は大きいと考えており、新たな用途開発が進むよう協会としても積極的に支援して参りたいと考えております。

また、工場保安、化学物質管理などの安全・環境対策には、引き続き気を引き締めて対応し、化学業界の模範を示せるよう努めてまいります。

最後になりましたが、塩ビ事業に携われておられる各社の益々のご隆盛と、本日ご臨席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

(1月8日(火)開催のVEC賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

■年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 進藤秀夫

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年12月19日付けで、専務理事に着任しました進藤秀夫と申します。前任の関同様、どうぞよろしくお願いいたします。

今年は平成最後の年となりますが、私は平成が始まったころの1991年から1992年にかけて1年間、通商産業省化学製品課(当時)において、塩ビをはじめとするプラスチック製品を担当しておりました。当時はちょうど「再生資源の利用の促進に関する法律」(平成3年法律第48号)が施行され、業界の自主的リサイクル活動を社会に積極的に位置づけるべく、容器の材質表示システムづくりや各種のモデル・リサイクル事業への取組が進められていました。塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)の前身である塩化ビニルリサイクル推進協議会が設立されたのもその頃(1991年10月)でした。当時は廃棄物埋め立て空間の逼迫やダイオキシン発生との関連などが懸念として取り沙汰されていたように思います。

それから 30 年近くたち、昨年 12 月のエコプロ展の VEC/JPEC ブースでは、ダイオキシン問題についての質問はごく少ない一方で、塩ビのリサイクルに係る方法や用途などに関し多くのお問い合わせをいただくとともに、可塑剤・樹脂窓あるいは海洋プラスチックなどについて幅広くご質問を頂戴いたしました。塩ビの課題としても、プラスチック全般の課題としても、資源循環や環境問題対応の重要性はいささかも変わらないことを痛感しております。

海洋プラスチック問題については、昨年 6 月の G7 において海洋プラスチック憲章が提起されたことを契機に、政府や関係諸団体により様々な取組が進められており、本年 6 月にわが国で開催する G20 においても大きな関心を集めることとなりましょう。VEC も昨年より海洋プラスチック問題対応協議会 (JaIME) の共同事務局を務めさせていただいております。塩ビ製品は、建材、インフラ関連での利用が主体であり長年にわたって利用されることから省資源であり、なおかつマテリアル・リサイクル性能にも優れています。そのような塩ビ製品の長を生かし、その潜在性をさらに開花させるべく努めたいと思います。また、プラスチックは、日々の生活はもとより産業活動においても、軽量かつ加工が容易で、基材、部品、包装材などとしても、極めてすぐれた利便性に加えて、温暖化対策、省資源への寄与は大きいものがあります。そのような機能を十分に生かしつつ海洋プラスチック問題にも対応すべきでしょう。そのためには、プラスチック・マテリアルフローの把握から始まり、廃棄物管理・リサイクルシステムの構築について、日本の経験を生かした協力を行っていくことが効果的と考えます。関係諸団体の皆様ともよく連携協力して取り組んでいく所存です。

また、学界、関係官庁、関係団体、関係企業の皆様と協力しつつ、客観的かつ科学的なファクトに基づいて塩ビ製品の良さをアピールしていきたいと考えております。例えば、樹脂窓については、省エネや快適性、耐久性評価などに関するファクトを積み重ねてまいりました。温暖化対策に貢献しつつ生活の質を向上させる可能性と、そして製品としての信頼性をわかりやすく伝えることができると考えております。

持続的成長が世界的に大きな課題となっておりますが、塩ビ製品が貢献できる余地は大きなものがあると考えております。塩ビ製品の潜在性をさらに大きく発揮させるべく、微力ながら尽くしてまいるので、どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のますますのご発展をお祈りいたします。

■ 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支は 12 番目の亥年です。木へんを付ければ、「核」で、軸・中心となるものまたはタネを意味します。収穫して次の新しい年の萌芽に備えて生命力・エネルギーを蓄え準備することにもつながります。今年は年号が変わりますが、飛躍の年になりますようもっと希望の持てる話題をメルマガで届けたいと思っています。

引き続きご愛読いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。(UCH)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■東京都中央区新川 1-4-1
■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783
■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
